

平成 30 年度 地域活性化総合特別区域評価書

作成主体の名称：大分県、宮崎県

1 地域活性化総合特別区域の名称

東九州メディカルバレー構想特区

2 総合特区計画の状況

① 総合特区計画の概要

大分県・宮崎県の産学官で策定した「東九州メディカルバレー構想」を基盤として、地域の特長である血液・血管関連の医療機器のみならず、介護・福祉機器分野を含む医療関連機器産業の国際競争力及び産業競争力の強化と海外市場への展開を見据え、研究開発促進や、地場企業の育成と成長、医療技術人材の育成などに取り組む。

② 総合特区計画の目指す目標

医療関連産業の更なる産業集積と健康寿命の延伸及び高齢者の活力ある生活への貢献を通じ、産業集積を活かした地域の活性化と医療関連分野でアジアに貢献する地域を目指す。

この取組により、我が国全体の医療関連機器産業の成長と日本製医療関連機器の市場拡大に寄与する。

③ 総合特区の指定時期及び総合特区計画の認定時期

平成 23 年 12 月 22 日指定

平成 24 年 7 月 13 日認定（平成 29 年 3 月 27 日最終認定）

④ 前年度の評価結果

ライフ・イノベーション分野 3.6 点

- ・ 2 県間の連携による地域独自の取組も含め、全体として順調に進展している。産学官の連携により、医療機器の海外展開を見据えた人材育成・交流が急速に進んでいることは特に評価できる。
- ・ オープンイノベーションの場となると、更なる発展が期待できる。
- ・ 評価指標（4）新規海外医療技術人材育成数の実績値が目標値を大幅に上回っており、より適切な目標の再設定が必要である。また、大学や医療機関等の受け入れ体制が十分かどうかチェックしながら、必要な支援を行っていくことも重要だと考える。
- ・ 企業による透析医療の海外展開にあたっては、移植医療とのバランスも考慮する必要があるのではないか。
- ・ 透析技術の海外展開によって、医療関連機器の製造企業数の増加や輸出額の増加だけでなく、消耗品の輸出額の増加も期待できるのではないか。

⑤本年度の評価に際して考慮すべき事項

「該当なし」

3 目標に向けた取組の進捗に関する評価（別紙1）

①評価指標及び留保条件

評価指標(1)：医療関連機器の市場化件数〔進捗度 133%〕

数値目標(1)：大分・宮崎両県内の産学官が開発を進める医療関連機器の市場化件数
15 件（H29～R3 年度）
〔30 年度目標値 6 件、30 年度実績値 8 件、進捗度 133%〕

評価指標(2)：新規医療機器製造登録事業所・製造販売許可業者数〔進捗度 200%〕

数値目標(2)：大分・宮崎両県の新規医療機器製造登録事業所・製造販売許可事業者数
10 件（H29～R3 年度）
〔30 年度目標値 4 件、30 年度実績値 8 件、進捗度 200%〕

評価指標(3)：新規輸出する医療関連機器を製造する企業〔進捗度 50%〕

数値目標(3)：新規輸出する医療関連機器を製造する大分・宮崎両県の企業
6 社（H29～R3 年度）
〔30 年度目標値 2 社、30 年度実績値 1 社、進捗度 50%〕

評価指標(4)：新規海外医療技術人材育成数〔進捗度 952%〕

数値目標(4)-①：大分・宮崎両県の産学官による新規海外医療技術人材育成数
200 名（H29～R3 年度）
〔30 年度目標値 71 名、30 年度実績値 740 名、進捗度 1,042%〕

数値目標(4)-②：上記のうち、血液・血管分野の新規海外医療技術人材育成数
165 名（H29～R3 年度）
〔30 年度目標値 57 名、30 年度実績値 491 名、進捗度 861%〕

②寄与度の考え方

「該当なし」

③総合特区として実現しようとする目標（数値目標を含む）の達成に、特区で実施する各事業が連携することにより与える効果及び道筋

i) 産学官連携研究開発促進事業による医療関連機器の開発促進、ii) 医療関連機器産業参入促進事業による新たな医療関連機器関連企業の誘致や域内企業による新規参入・取引拡大等、iii) 血液・血管医療を中心とするネットワーク構築・活用事業による国内外の医療技術者の集積・交流の促進、医療機関ネットワークの構築とこれらの3つの事業を同時に進めることにより、医療関連機器の市場化件数、新規医療機器製造登録事業所・製造販売許可事業者、新規輸出する医療関連機器製造企業及び新規海外医療技術人材育成数の増加を図る。

特に、地域独自の取組として、i) では、大分大学医学部、宮崎大学医学部にそれぞれ医療機器の研究開発を目的とする寄附講座等を設置し、平成 30 年度も研究開発等が継続して実施されている。ii) では両県合わせ 240 企業（大分県 147、宮崎県 93）の地場

企業からなる研究会を組織し、介護、福祉、看護関係を含む医療関連分野への新規参入から販路開拓に向け、平成 30 年度も各種セミナーやニーズ探索、ビジネスマッチング、展示会出展等様々な活動を実施した。これらの取組を一体的に実施することで、医療関連機器産業の一層の集積が促進されている。

とりわけ、平成 27 年度に大分大学は寄附講座であった臨床医工学講座を発展させ、臨床医工学センターを産官連携して新設した。臨床医工学センターは医療機器開発の支援拠点や海外人材育成の受入拠点として機能しており、地場企業による研究開発や海外医療技術者との交流の促進が図られている。また、タイの国立マヒドン大学シリラート病院内に大分大学初の海外事務所を平成 27 年 8 月に開設し、ASEAN 諸国との人材交流拠点として、保健医療人材の能力強化、透析医療水準の向上に関する研修を実施し、タイでの日本式医療システムの普及・啓発等の取組を進めている。

また、iii) の人材育成を通じて、アジア等への医療機器の海外展開を促進し、東九州地域の透析・血液浄化（アフェレシス）関連機器と医療技術をパッケージとして売り込む事業を JICA, JETRO, AOTS(海外産業人材育成協会)と連携して平成 25 年度から実施し、ASEAN 諸国の医療関係者を日本に招聘し研修を実施しているほか、タイの国立病院への日本式透析システムや血液浄化（アフェレシス）治療の啓発・普及に取り組んでいる。

平成 30 年度はタイの神経学会、腎臓学会に加え、保健省、労働省社会保障事務局、国民医療保障庁からも参加し、アフェレシス治療が有効であることの認知の拡大を図り、タイ政府への保険適用申請を完了した。また、JICA と連携し、産学官により、水処理装置及び樹脂製留置針等の日本製透析関連機器を使用した現地での指導研修等をタイの国立病院にて実施した。

更には、タイの国立大学等での日本製医療機器の保守管理技術者（臨床工学技士相当）の育成事業を平成 25 年度から実施しており、平成 27 年度に九州保健福祉大学がタイのタマサート大学と教育交流協定を締結し、タマサート大学に血液透析業務等を担う臨床工学技士の養成課程の設置が決定するとともに、平成 29 年度には、タマサート大学に臨床工学技士を育成するための「国際医療トレーニングセンター」が開所し、平成 30 年度も、AOTS（海外産業人材育成協会）と連携した ASEAN 諸国の医療従事者等への指導等を実施した。日本の医療技術と日本製医療機器の導入に向けた取組が着実に進んでいる。

こうした取組の中、タイで見守りシステムの普及・実証事業を開始し、モデルケースの構築と民間ビジネス展開を進める地場企業も出ているなど、海外展開に一層の広がりを見せている。

将来的には特区地域で生産される医療機器が ASEAN 諸国に普及することによる医療機器生産金額の消耗品の輸出額増加、日本式透析システムの浸透によるアジア諸国の医療水準の向上が期待される。

更に、特区の利子補給金の活用や、財政支援措置による新たな医療機器の研究開発により地域独自の取組を支援していくことで、令和元年度以降はこれらの取組がより加速していくことが期待される。

④目標達成に向けた実施スケジュール（別紙 1－2）

医療関連機器の市場化件数については、平成 30 年度の目標値 6 件に対して 8 件（大分

県 5 件、宮崎県 3 件) の実績となり、目標値を達成し、地場企業の医療関連機器開発の取組が活発化している。これは、産学官連携研究開発促進事業等による産学官連携による医療関連機器の研究開発が進んだことが大きな要因である。次年度以降も、産学官連携による医療関連機器の研究開発等を継続し、更なる実績の向上を目指していく。

新規医療機器製造登録事業所・製造販売許可業者数については、平成 30 年度目標値 4 件に対して 8 件（大分県 6 件、宮崎県 2 件）の実績となり、目標を上回る実績である。これは、医療関連機器産業参入促進事業による地場企業の新規参入が進んだことが大きな要因である。次年度以降も、両県の地場企業支援を目的とした研究会員 240 社（大分県 147 社、宮崎県 93 社）を中心として地場企業の新規参入支援を継続し、更なる実績の向上を目指していく。

新規輸出する医療関連機器を製造する企業については、平成 30 年度目標値 2 社に対して、1 社（大分県 0 社、宮崎県 1 社）の実績となり、目標を下回った。医療関連機器産業参入促進事業による地場企業の医療関連機器産業への新規参入は進んでおり、海外展開の支援等を実施している中で、新たに海外展開を目指す地場企業も出てきており、引き続き目標達成に向け取組を進めて行く。

新規海外医療人材育成数については、平成 30 年度目標値 71 名に対し、740 名（大分県 284 名、宮崎県 441 名、両県 15 名）と目標を大幅に上回る実績である。これは、血液・血管医療を中心とするネットワーク構築・活用事業による ASEAN 地域の医療人材育成が進んだことが大きな要因である。次年度以降も、ASEAN を中心とした海外医療人材育成を継続し、更なる実績の向上を目指していく。

令和元年度以降は、主に産学官連携研究開発促進事業の宮崎大学血液・血管先端医療学講座や大分大学臨床医工学センターにおける研究開発、医療関連機器産業参入促進事業の地場企業の新規参入、販路拡大に向けた支援をさらに促進させるとともに、医療技術人材育成事業のアジア等への医療機器の海外展開を促進し、目標に向けた取組を促進させる。

4 規制の特例措置を活用した事業等の実績及び自己評価（別紙 2）

①特定地域活性化事業

「該当なし」

具体的案件がなかったため。

②一般地域活性化事業（医薬品医療機器等法）

ア 事業の概要

非治験臨床性能評価制度適用の拡大（平成 24 年春協議）

国との協議の結果、「例えば認証品目である留置針について、認証取得前に、無痛性に関する試験等、認証申請とは異なる観点からヒトを用いた試験を行う場合、第三者に対して未承認・未認証医療機器の提供・貸与等を行うことなく、企業内で使用することは、一定の条件の下、現行制度においても可能である」ことが確認された。

イ 評価対象年度における規制の活用状況と目標達成への寄与

非治験臨床性能評価制度適用範囲の拡大により、企業の穿刺針の無痛性試験を

実施し、企業の開発費用負担軽減や製品開発速度向上の効果が認められた。

③規制の特例措置の提案

「該当なし」

具体的案件がなかったため。

5 財政・税制・金融支援の活用実績及び自己評価（別紙3）

①財政支援：評価対象年度における事業件数1件

<調整費を活用した事業>

「該当なし」

<既存の補助制度等による対応が可能となった事業>

①-1 医療関連機器産業参入促進事業（戦略的基盤技術高度化支援事業）（30年度要望結果：既存の補助制度等による対応が可能）

ア 事業の概要

内視鏡外科医師の早期養成、及び手術時間短縮のため、眼電位・筋電位等の生体信号による空間画像処理技術を開発し、透過型ヘッドマウントディスプレイを用いたハンズフリーコミュニケーション支援システムの製品化。

イ 評価対象年度における財政支援の活用状況と目標達成への寄与

平成30年度に国の補助制度に採択され、患者の身体的負担が少ない内視鏡外科手術時における指導医と若手医師の正確な意思伝達を可能にするハンズフリーコミュニケーション支援システムの開発に着手することができた。製品化への取組であることから、評価指標である「医療関連機器の市場化件数」、「新規輸出する医療機器を製造する企業」に直接的に影響し、本特区の目指す目標である医療関連産業の更なる産業集積、これを活かした地域の活性化等に大きく寄与するものである。

ウ 将来の自立に向けた考え方

特区の財政支援の活用により医療関連機器の製品化を目指す中、地域独自の取組等も合わせて実施していくことにより、将来的には評価指標である「医療関連機器の市場化件数」、「新規輸出する医療機器を製造する企業」の他「新規医療機器製造登録事業所・製造販売許可業者数」、「新規海外医療技術人材育成数」にも寄与することが期待される。

②税制支援：評価対象年度における適用件数0件

「地域活性化総合特区を対象とする税制支援が平成29年度末で廃止されたことから、該当なし」

③金融支援（利子補給金）：評価対象年度における新規契約件数0件

「該当なし」

※財政・税制・金融支援に該当する事業がない場合の理由

税制：当該年度において、税制支援制度における活用可能な具体的案件がなかったため。

金融支援：当該年度において、金融支援制度における活用可能な具体的案件がなかったため。

6 地域独自の取組の状況及び自己評価（別紙4）

（地域における財政・税制・金融上の支援措置、規制緩和・強化等、体制強化、関連する民間の取組等）

域内の地場企業の研究開発のための財政支援や、医療機器産業等への新分野進出等を支援するための金融支援を実施し、新規医療機器製造登録事業所・新規医療機器製造販売業許可取得業者が8事業所（大分県6事業所、宮崎県2事業所）となるなど、医療関連機器産業の集積が一層促進された。

加えて、医療機器の研究開発を目的とした大分大学臨床医工学センターの運営支援や宮崎大学医学部血液・血管先端医療学講座の設置、両県合わせて240社の地場企業からなる協議会・研究会を組織しての新規参入活動などを進めている。

さらには、新たに販売開始に至った8件のほかにも、新たな医療関連機器開発が進展中であり、国内外の医療人材育成を通じてアジア等への医療機器の海外展開を促進する事業に取り組んだ結果、新規海外医療人材育成数は740名にも上り、地域独自の予算による取組は順調に実施されている。

7 総合評価

特区の規制緩和措置として非治験臨床性能評価制度適用範囲の拡大による企業の改良品の早期開発の実現や財政支援措置による医療関連機器開発、地域独自の財政支援措置などによる研究開発事業が本格的に進むとともに、新しい医療関連機器の販売を開始する企業が出てくるなど、目標達成に向けた成果が出てきていることから、全体としては順調に進んでおり、総合特区としての取組を来年度以降も継続していく。

■目標に向けた取組の進捗に関する評価

		当初(平成29年度)	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
評価指標(1) 医療関連機器の 市場化件数	数値目標(1) 大分・宮崎両県内の産学官が開 発を進める医療関連機器の市場 化件数 15件(累計) (H29~R3年度目標値)	目標値	3	6	9	12	15
		実績値	3	8			
	寄与度(※):100(%)	進捗率(%)	100%	133%			
	代替指標の考え方または定性的 評価 ※数値目標の実績に代えて代替 指標または定性的な評価を用い る場合						
	目標達成の考え方及び目標達 成に向けた主な取組、関連事業		本特区の政策課題である「産学官連携による医療機器の研究開発の強化」によって研究開発を進める医療関連機器を市場に繋げることが重要であるため、産学官連携研究開発促進事業による医療関連機器の開発促進や医療関連機器産業参入促進事業による域内企業による新規参入等、血液・血管医療を中心とするネットワーク構築・活用事業による国内外の医療技術者の集積・交流の促進等これら3つの事業を同時に進めることにより、医療関連機器の市場化件数の増加を図る。				
	各年度の目標設定の考え方や 数値の根拠等 ※定性的評価の場合は、数値の 根拠に代えて計画の進行管理の 方法等		地域内で開発等が進められている医療関連機器の市場化件数の目標値を令和3年度までに15件としている。平成24~28年度までの5年間の産学官が開発を進める医療関連機器の市場化件数は3件であるが、これまでの間、域内地場企業による医療関連機器の研究開発を進めており、今後は各年度毎に着実に市場化件数が増加していくことを想定して設定している。				
	進捗状況に係る自己評価(進捗 が遅れている場合は要因分析) 及び次年度以降の取組の方向 性		平成30年度の目標値6件に対して、実績値が8件となり、目標値を達成した。 これは、産学官連携研究開発促進事業等による産学官連携による医療関連機器の研究開発等が進んだことが大きな要因である。 次年度以降も、産学官連携による医療関連機器の研究開発等を継続し、更なる実績の向上を目指していく。				
外部要因等特記事項		-					

※寄与度:一つの評価指標に対して複数の数値目標がある場合、それぞれの数値目標が評価指標に与える寄与度を記入してください。

■現地調査時の指摘事項及びそれに対する取組状況等

[指摘事項] 現地調査なし	[左記に対する取組状況等] -
------------------	--------------------

■目標に向けた取組の進捗に関する評価

		当初(平成29年度)	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
評価指標(2) 新規医療機器製造登録事業所・製造販売許可業者数	数値目標(2) 大分・宮崎両県の新規医療機器製造登録事業所・製造販売許可事業者数 10件(累計) (H29~R3年度目標値)	目標値	2	4	6	8	10	
		実績値	3	8				
	寄与度(※):100(%)	進捗度(%)	150%	200%				
	代替指標の考え方または定性的評価 ※数値目標の実績に代えて代替指標または定性的な評価を用いる場合							
	目標達成の考え方及び目標達成に向けた主な取組、関連事業		本特区の政策課題である「裾野の広い医療関連産業の集積拡大」の解決には、地場中小企業の医療関連機器産業への新規参入を促進し、医療機器産業の更なる集積を推進することが不可欠であることから、産学官連携研究開発促進事業による医療関連機器の開発促進や医療関連機器産業参入促進事業による域内企業による新規参入等、血液・血管医療を中心とするネットワーク構築・活用事業による国内外の医療技術者の集積・交流の促進等これら3つの事業を同時に進めることにより、新規医療機器製造登録事業所・製造販売許可事業者の増加を図る。					
	各年度の目標設定の考え方や数値の根拠等 ※定性的評価の場合は、数値の根拠に代えて計画の進行管理の方法等		新規医療機器製造登録事業所・製造販売許可事業者数を令和3年度までに年間2件ずつ、計10件増やすことを目標とする。平成24~28年度までの5年間の新規医療機器製造登録事業所・製造販売許可事業者数は24事業所であり、これまで域内地場企業による新規参入、医療機器関連企業の新規誘致、工場増設等に重点的に取り組むことで成果を上げてきた。今後も引き続き、新規参入等を促進し、各年度毎に着実に医療機器製造登録事業所・製造販売許可事業者数が増加していくことを想定して設定している。					
進捗状況に係る自己評価(進捗が遅れている場合は要因分析)及び次年度以降の取組の方向性		平成30年度の目標値4件に対して、実績値が8件となり、目標値を上回った。これは、医療関連機器産業参入促進事業による地場企業の新規参入が進んだことが大きな要因である。次年度以降も、両県の地場企業支援を目的とした研究会員240社(大分県147社、宮崎県93社)を中心として地場企業の新規参入支援を継続し、更なる実績の向上を目指していく。						
外部要因等特記事項		-						

※寄与度:一つの評価指標に対して複数の数値目標がある場合、それぞれの数値目標が評価指標に与える寄与度を記入してください。

■現地調査時の指摘事項及びそれに対する取組状況等

[指摘事項] 現地調査なし	[左記に対する取組状況等] -
------------------	--------------------

■目標に向けた取組の進捗に関する評価

		当初(平成29年度)	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
評価指標(3) 新規輸出する医療 関連機器を製造する企業	数値目標(3) 新規輸出する医療関連機器を製造する大分・宮崎両県の企業6社(累計) (H29~R3年度目標値)	目標値	2	2	4	4	6	
		実績値	1	1				
	寄与度(※):100(%)	進捗度(%)	50%	50%				
	代替指標の考え方または定性的評価 ※数値目標の実績に代えて代替指標または定性的な評価を用いる場合							
	目標達成の考え方及び目標達成に向けた主な取組、関連事業		本特区の政策課題である「裾野の広い医療関連産業の集積拡大」の解決には、医療関連機器の早期の上市を図るとともに、生産金額の増加に向け新たな販路開拓をすることが必要であることから、産学官連携研究開発促進事業による医療関連機器の開発促進や医療関連機器産業参入促進事業による域内企業による新規参入等、血液・血管医療を中心とするネットワーク構築・活用事業による国内外の医療技術者の集積・交流の促進等これら3つの事業を同時に進めることにより、新規輸出する医療関連機器製造企業の増加を図る。					
	各年度の目標設定の考え方や数値の根拠等 ※定性的評価の場合は、数値の根拠に代えて計画の進行管理の方法等		特区内で医療関連機器を製造又は研究開発している事業者のうち、令和3年度までに新たな海外展開が想定される6社を目標値として設定している。域内地場企業による医療関連機器の海外市場への新たな販路開拓を進め、新規輸出を行う企業数が増加していくことを想定して設定している。					
進捗状況に係る自己評価(進捗が遅れている場合は要因分析)及び次年度以降の取組の方向性		平成30年度の目標値2社に対して、実績値が1社となり、目標値を下回った。これは、当初の想定企業が、機器の輸出ではなく、現地サービス提供にとどまったため、輸出に至るまでの製品開発に至っていないためである。医療関連機器産業参入促進事業による地場企業の医療関連機器産業への新規参入は進んでおり、海外展開の支援等を実施しているところである。さらに今年度からはJICAと連携した海外に向けた取組等も実施しているところである。次年度以降も、JICA事業の取組や地域内企業の海外展開支援を継続し、実績の向上を目指していく。						
外部要因等特記事項		-						

※寄与度:一つの評価指標に対して複数の数値目標がある場合、それぞれの数値目標が評価指標に与える寄与度を記入してください。

■現地調査時の指摘事項及びそれに対する取組状況等

[指摘事項] 現地調査なし	[左記に対する取組状況等] -
------------------	--------------------

■目標に向けた取組の進捗に関する評価

		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
評価指標(4) 新規海外医療技術 人材育成数	数値目標(4)① 大分・宮崎両県の産学官による新 規海外医療技術人材育成数 200名(累計) (H29～R3年度目標値)	目標値	33	71	114	157	200	
		実績値	436	740				
	寄与度(※):50(%)	進捗度(%)	1321%	1042%				
	数値目標(4)② 上記のうち、血液・血管分野の新 規海外医療技術人材育成数 165名(累計) (H29～R3年度目標値)	目標値	26	57	93	129	165	
		実績値	302	491				
	寄与度(※):50(%)	進捗度(%)	1162%	861%				
	代替指標の考え方または定性的評価 ※数値目標の実績に代えて代替指標または定性的な評価を用いる場合							
	目標達成の考え方及び目標達成に向けた主な取組、関連事業		本特区の政策課題である「優れた日本式医療システムに精通する海外医療人材の育成」解決のため、産学官連携研究開発促進事業による医療関連機器の開発促進や医療関連機器産業参入促進事業による域内企業による新規参入等、血液・血管医療を中心とするネットワーク構築・活用事業による国内外の医療技術者の集積・交流の促進等これら3つの事業を同時に進めることにより、新規海外医療技術人材育成数の増加を図る。					
	各年度の目標設定の考え方や数値の根拠等 ※定性的評価の場合は、数値の根拠に代えて計画の進行管理の方法等		令和3年度までの目標値を200名、うち血液・血管医療分野165名としている。新たに開設した国際医療トレーニングセンターでの現地研修を中心とした取組などによって、各年度毎に着実に新規海外医療技術人材育成数が増加していくことを想定して設定している。新規海外医療技術人材育成数の実績値については、目標値を大幅に上回っているため、これまでの実績や今後の状況等を踏まえ、目標値の再設定について検討を行う。前年度にも目標再設定の指摘があったが、目標を大幅に上回るような実績が継続しない可能性もあったため、特区担当者と協議の上保留となっていたもの。					
	進捗状況に係る自己評価(進捗が遅れている場合は要因分析)及び次年度以降の取組の方向性		平成30年度の数値目標(4)①の目標値71名に対して実績値が740名、数値目標(4)②の目標値57名に対して実績値が491名となり、目標値を大幅に上回った。これは、血液・血管医療を中心とするネットワーク構築・活用事業によるASEAN地域の医療人材育成が進んだことが大きな要因である。次年度以降も、ASEANを中心とした海外医療人材育成を継続し、更なる実績の向上を目指していく。					
外部要因等特記事項		-						

※寄与度:一つの評価指標に対して複数の数値目標がある場合、それぞれの数値目標が評価指標に与える寄与度を記入してください。

■現地調査時の指摘事項及びそれに対する取組状況等

[指摘事項] 現地調査なし	[左記に対する取組状況等] -
------------------	--------------------

目標達成に向けた実施スケジュール
 特区名:東九州メディカルバレー構想特区

年 月	H29												H30												R1												R2												R3											
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12			
全体	産学官連携研究開発促進事業実施																																																											
	医療関連機器産業参入促進事業実施																																																											
	血液・血管医療を中心とするネットワーク構築・活用事業実施																																																											
事業1	産学官連携研究開発促進事業																																																											
	寄附講座・臨床医工学センターの設置																																																											
	研究開発拠点の整備																																																											
	新たな医療機器の研究開発																																																											
	臨床現場ニーズと企業研究者のマッチング																																																											
事業2	医療関連機器産業参入促進事業																																																											
	医療機器産業新規参入研究会																																																											
	セミナー開催																																																											
	展示商談会への出展												MEDTEC等への出展																																															
	医療機器メーカーとのマッチング																																																											
	コーディネーターの設置																																																											
	医療機器メーカー誘致活動																																																											
	企業訪問活動																																																											
	広報活動																																																											
事業3	血液・血管医療を中心とするネットワーク構築・活用事業																																																											
	トレーニング実施体制整備・運営												大分大学「血液浄化センター・MEセンター・臨床医工学センター」																																															
	国内外の研究者、医療技術者の集積・交流																																																											
	アジアからの視察研修受入												[九保大]												JICA事業等																																			
	アジアでの現地指導												九保大												JICA事業等																																			
	地域医療機関ネットワーク構築																																																											
	臨床データを研究開発に活かす仕組み構築																																																											
	事業化に向けた検討																																																											

■規制の特例措置を活用した事業

特定(国際戦略/地域活性化)事業の名称(事業の詳細は本文4①を参照)	関連する数値目標	規制所管府省による評価
「該当なし」		規制所管府省名: _____ <input type="checkbox"/> 特例措置の効果が認められる <input type="checkbox"/> 特例措置の効果が認められない ⇒ <input type="checkbox"/> 要件の見直しの必要性あり <input type="checkbox"/> その他 <特記事項>

※関連する数値目標の欄には、別紙1の評価指標と数値目標の番号を記載してください。

■国との協議の結果、現時点で実現可能なことが明らかになった措置による事業(本文4②に記載したものを除く。)

現時点で実現可能な明らかになった措置による事業の名称	関連する数値目標	評価対象年度における活用の有無	評価対象年度における活用状況の概要
「該当なし」			

■国との協議の結果、全国展開された措置を活用した事業(本文4②に記載したものを除く。)

全国展開された事業の名称	関連する数値目標	評価対象年度における活用の有無	評価対象年度における活用状況の概要
「該当なし」			

■上記に係る現地調査時指摘事項

[指摘事項]	[左記に対する取組状況等]
現地調査なし	—

■ 財政・税制・金融支援の活用実績及び自己評価（国の支援措置に係るもの）

財政支援措置の状況										
事業名	関連する数値目標	年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	累計	自己評価
医療関連機器産業参入促進事業（戦略的基盤技術高度化支援事業）	数値目標(1) 数値目標(3)	財政支援要望	(千円)	40,132 (千円)	42,188 (千円)	32,201 (千円)	(千円)	(千円)	114,521 (千円)	補助制度等所管府省名：経済産業省 対応方針の整理番号：39 特区調整費の活用：無 平成30年度に国の補助制度に採択され、患者の身体的負担が少ない内視鏡外科手術時における指導医と若手医師の正確な意思伝達を可能にするハンズフリーコミュニケーション支援システムの開発に着手することができた。 製品化によって評価指標である「医療関連機器の市場化件数」、「新規輸出する医療機器を製造する企業」に直接的に影響し、本特区の目指す目標である医療関連産業の更なる産業集積、これを活かした地域の活性化等に大きく寄与するものである。
		国予算(a) (実績)	(千円)	27,266 (千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	27,266 (千円)	
		自治体予算(b) (実績)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	
		総事業費(a+b)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	

税制支援措置の状況 「該当なし」										
事業名	関連する数値目標	年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	累計	自己評価
税制支援①		件数								

金融支援措置の状況 「該当なし」										
事業名	関連する数値目標	年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	累計	自己評価
金融支援①		新規契約件数								

■ 上記に係る現地調査時指摘事項

[指摘事項] 現地調査なし	[左記に対する取組状況等] -
------------------	--------------------

地域独自の取組の状況及び自己評価（地域における財政・税制・金融上の支援措置、規制緩和・強化等、体制強化、関連する民間の取組等）

■財政・税制・金融上の支援措置

財政支援措置の状況				
事業名	関連する数値目標	実績	自己評価	自治体名
①東九州メディカルバレー構想拠点機能強化事業 ②大分県医療機器産業参入加速化事業 ③大分県地域牽引企業創出事業 ④大分県企業立地促進事業 ⑤宮崎県東九州メディカルバレー医工連携ステップアップ事業 ⑥宮崎県企業立地促進補助金 ⑦宮崎県産学官共同研究開発補助金 ⑧みやざき成長産業雇用拡大・定着推進事業補助金（みやざき成長産業育成・雇用創出プロジェクト）	数値目標（1） 医療関連機器の市場化件数 数値目標（2） 新規医療機器製造登録事業所・製造販売許可事業者数	大分、宮崎両県の地場企業の医療関連機器の研究開発等の支援を実施した。 <予算額> ①739万円 ②4,006万円（研究開発7件） ③17,168万円 ④121,148万円 ⑤2,195万円 ⑥60,000万円 ⑦1,700万円（事業可能性調査1件、研究開発1件） ⑧76,463万円	医療関連機器産業への新規参入や取引拡大に向けた製品開発が促進され、特区の目標達成に向けた取組として効果が認められた。	大分県 宮崎県
税制支援措置の状況				
事業名	関連する数値目標	実績	自己評価	自治体名
金融支援措置の状況				
事業名	関連する数値目標	実績	自己評価	自治体名
①大分発ニュービジネス発掘・育成事業 ②大分県経営革新企業成長促進事業 ③大分県中小企業向融資制度 ④みやざき成長産業育成貸付（宮崎県中小企業融資制度貸付金）	数値目標（1） 医療関連機器の市場化件数 数値目標（2） 新規医療機器製造登録事業所・製造販売許可事業者数	大分県、宮崎県の地場企業に対して、制度融資等を実施し、医療機器産業等への新分野進出等の支援を実施した。 <予算額> ①2,807万円 ②2,800万円 ③35,796百万円 ④34,682百万円	医療機器産業等への新分野進出等が促進され、特区の目標達成に向けた取組として効果が認められた。	大分県 宮崎県

■規制緩和・強化等

規制緩和				
取組	関連する数値目標	直接効果（できる限り数値を用いること）	自己評価	自治体名
規制強化				
取組	関連する数値目標	直接効果（できる限り数値を用いること）	自己評価	自治体名

その他				
取組	関連する数値目標	直接効果（できる限り数値を用いること）	自己評価	自治体名

■体制強化、関連する民間の取組等

体制強化	<p>平成30年度は以下の体制にて事業に取り組んだ。</p> <p>[大分県・宮崎県]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大分県構想推進会議事務局（H22年より措置／人員4名） ・大分県医療機器開発コーディネーター・アドバイザー（H27年より措置／人員4名・1社） ・大分大学医学部臨床医工学センター（H27年より措置／人員4名） ・大分県医療ロボット・機器産業協議会（H28年より措置／会員147社・27支援機関） ・宮崎県構想推進会議事務局（H22年より措置／人員4名） ・宮崎県構想推進コーディネーター（H24年より措置／人員2名） ・宮崎県薬事戦略等アドバイザー（H28年より措置／人員2名） ・宮崎県医工連携コーディネーター（H29年より措置／人員1名） ・宮崎大学血液・血管先端医療学講座（H24年より措置／人員3名） ・宮崎県医療機器産業研究会（H23年より措置／会員93社・18支援機関） ・両県に専任職員を配置（H25年より措置／大分県2名、宮崎県2名） ・東九州メディカルバレー構想のホームページを開設（H24年2月） ・延岡市メディカルタウン構想を推進 メディカルタウン推進室を設置（H23年4月より措置） ・宮崎県北部医療関連産業振興等協議会（延岡市、日向市、門川町）を設立（H25年5月より措置） ・東九州メディカルバレー構想推進会議の設置（H23年3月 事務局：大分県・宮崎県）
	民間の取組等

■上記に係る現地調査時指摘事項

[指摘事項] 現地調査なし	[左記に対する取組状況等] —
------------------	--------------------